

ジョギング ペースや水分補給

助言するスポーツウェア

東大など 4種のセンサー装着

東京大学などの研究グループは、ジョギング中に天気や体の状況などに応じて助言をしてくれるスポーツウェアを開発した。無線通信ができる小型のセンサーやパソコンなどをウェアに組み込んであり、走るペースや水分補給などについて音声で随時アドバイスする。長期間着用した時の効果を確認し、二、三年後の実用化を目指す。

心拍数など測定



状況に応じてアドバイス
をくれるスポーツウェア

東大の川原圭博助手と、ウェアラブル(服のように着る)機器の研究者の集まりであるウェア

ラブル環境情報ネットワーク推進機構(板生清理事長)が共同開発した。ウェアには心拍数、走

る速度、気温、紫外線の強さを測定する四種類のセンサーを装着。無線通信で測定データをポケットの中の小型パソコンに送る。あらかじめ設定しておく身長や体重、年齢などと組み合わせ、自動的に最適なアドバイスを選択、耳元の小型スピーカーを通じて知らせる。

例えば、効率的にエネルギーを消費できる心拍数にまで上がっていないときは「もっとペースを上げて」と指示、逆に心臓に過剰な負担がかかっている場合は減速などを伝える。走る速度が安定していない時は「走りが乱れている」、暑い中を早く走りすぎている時は「水分を補給して」など

と注意する。従来、運動中にアドバイスする機器としては走る速度など目標値を設定する室内用の運動装置などがあるが、ウェアに組み込み、心拍数や体温など体の状態に応じるのは新しい試み。今後、実際にこのウェアを長期間使い、適切な運動効果が得られるか確認する。

日経産業新聞

2005年9月9日(金)

8面 [先端技術]